



沖縄の朝 太平洋から昇る2024年の初日の出
(写真提供 原田敦夫氏)

共同の力で課題を乗り越えよう

新年あけましておめでとうございませす。旧年中は皆様の多大なるお力添えで例年通りの活動を行うことができたことを深く感謝申し上げます。新年の初めは巨大な自然の力をまざまざと見せつけられた能登半島地震。お正月をゆつくり過ごしておられた多くの命が失われてしまいました。またその災害支援に赴くはずの飛行機事故。災害や事故はいつ何時起こるか人の及ぶものではないことを戒めるかのような厳しいものとなりました。

4年前の新型コロナウイルス感染の世界的な大流行でまさに大きな打撃を受けました。ようやく沈静化の目途が見えたかと思うと、ロシアのウクライナ侵略、そして昨年10月に始まったイスラエルと武装勢力との血みどろの争い。そして世界各地で頻発する地球温暖化による重大な自然災害。この地区においても浸水災害が頻発するようになってきました。

今や他国のことなどと、のんきなことを言っておられるような単純な世界ではなくなっています。何でもないと思っていることが、実は重大な災害につながっていることすらあります。ひとり一人の行動が大きな影響を持つ時代になってきています。

こうした複雑な環境は、経済的な側面だけではなく、人々の価値観にも影響がありました。お互いが譲り合うような気持ちの余裕が失われ、互いが糾弾し合うような殺伐した風潮が多く見られるようになってしまいました。

代表 中村 文二

一番長い農道をきれいに



寒いときの作業は装備と素早い行動

12月17日、冬の環境整備として農道の除草清掃を西側外周路で実施しました。冬の雑草の成長は早くありませんが、この時期にしっかりと除草することで春以降の繁茂の時期の作業を軽減することができますと考えています。

当日は作業範囲を3つに分けて実施しました。寒い朝でしたが16名もの参加者があり、作業は予定通りに行うことができました。今月も14日、21日と実施します。

本当の緊急事態の時必ず役立つ訓練

12月3日、公民館での避難訓練と消火訓練が行われました。公民館で活動中に炊事場から出火、火災による被災者が出たという想定です。

被災された方を担架で安全な場所に搬送します。担架を公民館からどう出していくか、当たり前ですが、被災者の安全確保が最優先です。

そして消防署への通報、これも実際の場面で間違いなくできるように、練習しておく必要があります。

そして最後は模擬消火器を使った、消火訓練を行いました。



担架での搬送訓練、実際には落ち着いた行動が一番重要

農地に休みなし 農作業も



緑の芽が生えそろう麦畑の上に冬空が広がる

冬は農業は休みでしょうか。答えは「ノー」です。麦は日増しに色を増し、丈を伸ばしています。

麦の畝のそばには雑草が芽を出しています。寒くても雨が少なくても、植物の営みは止まることはありません。

八方原地区の麦作は決して大規模なものではありませんが、高品質な麦を産出しています。

麦の植えてない圃場は、年末に全てトラクターで耕うんされました。雑草の繁茂を抑え、土壌に酸素を供給する作業です。休みはありませんね。

お餅つきは若い人のイベント？

12月30日、4班の「アダン」ではお餅つきが行われました。店主の町田さんがお客さんへのサービスで餅つきの体験を提供されたのです。

臼と杵での餅つきは今では珍しいものになりました。町田さんは自作の臼の用意をされており、以前からこういう活動がされているようです。

お餅は、お正月に欠かせない重要なアイテム。搗きたてのお餅の匂いは年の瀬を感じます。



▲大人の真似でも消火訓練に参加したことは心に残ると思います。
▶実際の火元だとここまで、勢いよくは難しいかも知れません。



マイナンバーを教えてください

令和5年に皆様にお支払いをした日当の金額を山口市に提出します。

その際に必要になるのがマイナンバーカード番号です。多くの方には、事務局にお知らせをいただいています。が、まだ全員ではありません。

今年もできる限り空欄のない報告書を提出したいと思っていますので、提出した覚えの無い方はお知らせください。この欄のQRコードからメール送信いただくか、左記携帯電話にメッセージでお願います。

090・3375・5384



発信者の名前をお忘れなく



若い人たちが集まって賑やかな餅つき